

## 28. 芸術工学府

(1) 芸術工学府の教育目的と特徴	28-2
(2) 「教育の水準」の分析	28-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	28-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	28-12
【参考】データ分析集 指標一覧	28-14

## (1) 芸術工学府の教育目的と特徴

1. 近年の社会においては、知的で豊かな生活が求められており、その達成にあっては機器具、空間、環境、情報等のあり方について新たな観点からの取り組みが不可欠である。また、この背景には、個と全体、多様化の中の調和と統一、開発と保全、不易流行等の複雑な関係網の中で解決策を求める社会的背景がある。産業界にあっても「環境ビジネス」、「ソフト産業」、「知的情報産業」、「感性産業」と言うべき新たな複合領域が形成される環境にある。

そのため、本学府は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基盤である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする高次の設計家を組織的に養成することを目的とする。

2. 「芸術工学専攻」及び「デザインストラテジー専攻」の2専攻からなる。
3. ミッションとして、感性研究、しくみ設計、イノベーション創出において指導的役割を果たす人材養成を明確にしている。
4. 学位論文の予備審査の申請条件を、芸術表現・デザインの実践に基づく研究を行う、いわゆるクリエイター系の博士後期課程学生へ配慮した内容にしている。
5. 芸術工学専攻（博士後期課程）にグローバル30プロジェクトに基づき開設された「デザイン人間科学国際コース」は英語の授業を提供し学位取得が可能としている。
6. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「英語のみで修了可能な国際コースの設置や博士課程教育リーディングプログラムの実施など本学の研究能力を活かした教育を推進してきたことを踏まえ、高度な専門知識・能力の育成と、グローバル社会で求められる研究者像に対応した教育を実現する。」を踏まえている。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7328-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7328-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系的が確認できる資料（別添資料 7328-i3-1～11）
- ・ 自己点検・評価において体系的や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7328-i3-12）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7328-i3-13）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では修士課程・博士後期課程ともに、高次の設計能力（感性研究、しくみ設計、イノベーション創出において創造的・先導的役割を果たす能力）を持った指導的な実務者の育成が求められている。地域・産業界及び国際社会が期待する人材を育成し、また、幅広く社会で活躍するために必要な高度な専門知識、技術及び企画・立案能力の習得を目指す学生の希望に応えるため、専門科目をより高度化したカリキュラムを実施している。カリキュラムは、体系的な共通科目等と合わせ、講座の科目、コース・専攻の科目、コース内もしくは専攻内共通科目

## 九州大学芸術工学府 教育活動の状況

及び自由科目により編成している[3.1]

- 芸術工学専攻では、特に劇場・音楽堂等に関する社会課題や人材需要を踏まえた教育、産業ニーズに対応した人材養成プログラムとしてホールマネジメントエンジニア育成プログラムを展開している。また、デザインストラテジー専攻では、デザインストラテジー専攻、QBS、QREC による合同演習やコンテンツビジネス業界の第一線で活躍するプロフェッショナルを講師として招く特別講義を含むカリキュラムを実施することにより、デザインやプログラミング等の知識・理解に加え、経営的な戦略や経済発展につながるアイデアを実現し得る、コンテンツビジネスプロデューサーを育成するプログラムを設けている。

(別添資料 7328-i3-14~15) [3.2]

- 九州大学の人間環境学、法学、医学、工学、システム情報学、総合理工学、農学の各研究院、総合博物館の協力の下、各研究院等の教員が本学府の授業を担当することにより、より専門的な学際化を実施している。同時に、芸術表現・デザインの実践に基づく研究を行う、いわゆるクリエイター系の博士後期課程学生は、学位論文審査申請時に提出する参考論文に代えて参考作品を提出することができるように配慮することで、学術動向に即した学位プログラムの構築、学際的的教育を推進している。( (後掲)別添資料 7328-i7-7) [3.3]

- 高度汎用的な知識・技術・態度(「ハイエンド・リテラシー」)を涵養する大学院基幹教育科目を開いている。(別添資料 7328-i3-16) [3.5]

### <必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(別添資料 7328-i4-1~2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 7328-i4-3~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数(別添資料 7328-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料(別添資料 7328-i4-6)
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 授業形態の顕著な特色は、理論的な内容を教授する講義科目(令和元(2019)

## 九州大学芸術工学府 教育活動の状況

年度 123 科目) と、実践的なプロジェクトなどの演習科目 (令和元 (2019) 年度 45 科目) の多様性に配慮した構成である。また、デザイン系のプレゼンテーションを重視した取組や工学的な内容の論文等研究の内容を他者に十分な時間をかけて詳細に紹介するなど教育効果を高めるための工夫を行っている。学生の研究テーマ等の必要に応じ、主指導教員に加えて副指導教員を配置することができる指導体制をとっており、学位論文に係る指導については、論文系の修士研究では、学会発表や論文掲載などを積極的に推奨し、作品制作系の修士研究ではコンサートや展示会などでの公表などを推奨している。[4. 1]

- インターンシップの実習期間は 2 日以上 2 週間未満、実習地域は九州内外と幅広く分布している。平成 28 (2016) 年度は、「インターンシップ (選択・2 単位)」を 34 名、「建築設計インターンシップ (4 単位・選択)」を 2 名、「ホール工学技術演習 (選択・2 単位)」を 1 名、「アーキテクトインターンシップ (選択・3 単位)」を 12 名が受講した。平成 29 (2017) 年度は、「インターンシップ」を 35 名、「ホール工学技術演習」を 2 名、「アーキテクトインターンシップ」を 9 名が受講した。平成 30 (2018) 年度は、「インターンシップ」を 28 名、「建築設計インターンシップ」を 2 名、「ホール工学技術演習」を 2 名、「アーキテクトインターンシップ」を 6 名が受講した。令和元 (2019) 年度は、「インターンシップ」を 24 名、「建築設計インターンシップ」を 1 名、「ホール工学技術演習」を 1 名、「アーキテクトインターンシップ」を 7 名が受講した。

(別添資料 7328-i4-7~8) [4. 2]

- オンライン学習システム Moodle を導入し、シラバス、授業連絡、授業教材、レポート、評価、アンケートなどに活用している。また、大学のファイル共有システムによる研究、実験、論文指導などの大容量のデータを共有とディスカッション、また、遠隔会議システムを使った交換留学中や海外出張中の学生や教員間での遠隔研究会なども行っている。[4. 3]
- 効果の高い学習指導法を教育現場に還元するため、芸術工学の強み分野を補強する人事を展開、社会でのデザインの実務経験を有する教員を積極的に採用し、デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員の採用や昇格に当たっては作品による業績の評価などを重要視している。[4. 4]
- 学生が国際会議に出席するための経済的支援、インターンシップへの積極的な参加支援、留学経験を得やすい授業期間設定、文科省のトビタテ留学 JAPAN の紹介と採択支援などを行い、国内外での研究活動経験、社会経験を得る機会を積極的に増やしている。[4. 5]
- 各コースで博士後期課程において開設される特別研修科目では、学生個々の研

## 九州大学芸術工学府 教育活動の状況

究内容に応じて、研究機関や他大学等の関係機関において、1～2ヶ月程度の研修を行う枠組みを用意している。これによって座学によって学ぶ理論と実務の架橋を確保している。[4.6]

- 授業科目と成績をオンライン上で確認できるシステムとなっており、学生が自分の単位取得状況とGPAを常に把握することができる。これにより、学習成果を可視化している。[4.7]

### <必須記載項目5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7328-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7328-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7328-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7328-i5-4）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「キャンパスライフ・健康支援センター」等の全学の教育組織と連携し、すべての学生が充実した学生生活を送ることができるよう、支援のための環境を整えている。多様化するメンタルヘルスの問題や障害を持った学生への支援体制を強化し、障害を持つ学生支援に対する支援理解のための講演会や留学生に対する生活の支援体制を整備している。

学生生活をより豊かなものとするために、学生の学習・生活環境の整備や奨学育英制度を充実するとともに、障害の多様化、深刻化する学生のメンタルヘルス問題等の新たな課題や留学生の住居、就職に関する問題への対応のため、アクセシビリティ教育の充実や学生のピアサポートを推進するなど、学生支援体制の改善・充実に取り組んでいる。[5.1]

### <必須記載項目6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7328-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7328-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されて

いる資料（別添資料 7328-i6-3）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 学習成果の評価方法、成績評価を共有し運用する上で、成績評価の内規を定め、専攻や個人の教員によって学生への評価に差異がでないよう、学府内で厳格に運用した。[6.1]

**<必須記載項目7 卒業（修了）判定>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7328-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 7328-i7-3～6）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 7328-i7-7～9）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（（再掲）別添資料 7328-i7-1～6）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 7328-i7-10～11）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 博士後期課程の修了判定に際しては、本審査の前に予備審査委員会を設置し修了を見極めることで、より厳格な審査を実施した。また、予備審査委員会の委員には外部の審査員も採用することで、客観性を重視した判定とした。  
（別添資料 7328-i7-12） [7.2]

**<必須記載項目8 学生の受入>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7328-i8-1）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7328-i8-2）
- ・ 指標番号1～3（データ分析集）
- ・ 指標番号6～7（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7328-i8-3）

## 九州大学芸術工学府 教育活動の状況

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- デザイン人間科学国際コース（博士後期課程）における英語コース設置、新たな海外の大学連携の際における外国人学生へのアピールの結果、留学生の割合が平成28（2016）年度から平成30（2018）年度で21.9%から26.5%へ増加した。

[8.1]

### <選択記載項目A 教育の国際性>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料7328-i4-5）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 部局間交流協定を締結している大学との国際的なプロジェクトとしてデザイン思考の手法を活用して社会課題の解決案を提案する授業「グローバルデザインプロジェクト」を平成28（2016）年度より開講している。アールト大学（フィンランド）、ダルムシュタット工科大学（ドイツ）、アムステルダム応用科学大学（オランダ）、大連理工大学（中国）、国立成功大学（台湾）とプロジェクトを行っており、参加学生数は平成28（2016）年17名、平成29（2017）年16名、平成30（2018）年17名、令和元（2019）年21名と増加傾向にある。[A.1]
- 国外のヒューマンサイエンスに興味がある学生に対して講義実習を行う「Human Science Summer School」をデザイン人間科学国際コース主催で開催している。参加学生数は平成28（2016）年17名、平成29（2017）年16名、平成30（2018）年17名、令和元（2019）年21名であった。[A.1]

### <選択記載項目B 地域連携による教育活動>

#### 【基本的な記載事項】

（特になし）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成30（2018）年度に、本学府及び九州大学未来デザイン学センターと他大学・関係協力機関の産官民が連携をとり、新しいスポーツをデザインし体験することを通じて、福岡の運動会の可能性について考え、未来社会の創成を行う「未来の



福岡の運動会」を開催した。参加者は二日間で延べ100名であった。[B.1]

- 九州大学大学院芸術工学府では、小・中・高校生や一般市民など多くの方々に親しみを持ってもらうために「デザインのフシギ体験」というテーマで研究施設公開イベントを毎年実施しており、地域の商店も出店している。参加者は平成30(2018)年度、令和元(2019)年と約1,000人程度であった。  
(別添資料 7328-i B-1) [B.0]

## <選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

### 【基本的な記載事項】

(特になし)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成26(2014)年度に九州大学教育の質向上支援プログラム(EEP)として「国際交流型デザイン教育の試行と発信」が採択され、2年間のプログラム期間中に具体的な国際連携授業についてのノウハウ、体験を蓄積し、教育国際化に関する方法論などの情報を共有した。プログラム期間終了後の平成28(2016)年度以降は、附属環境設計国際グローバル・ハブの活動に引き継がれている。[C.1]
- 平成27(2015)年度から平成29(2017)年度にかけて九州大学教育の質向上支援プログラム(EEP)として「デザイン教育の質的保証と国際共同教育プログラム開発事業」を推進し、世界トップレベルにあるデザイン学分野の高等教育機関(アールト大学(フィンランド)、スタンフォード大学(アメリカ)、リーズ大学(英国)、KAIST(Korea Advanced Institute of Science and Technology)(韓国)、Royal College of Art(英国)等)との連携を深めた。その成果として平成29(2017)年度に「デザイン教育の質に関する保証国際シンポジウム」を開催した。シンポジウムには、国内外のデザイン教育に携わる研究者16名(韓国1名、中国2名、台湾1名、シンガポール2名を含む)、学内教員43名の他、学生、行政、企業などから151名が参加した。また、平成29(2017)年11月以降数回、国内においてデザイン学分野で実績のある主要な8大学から研究者が集まって「デザイン系大学連携会議」を実施し、これからのデザイン教育、デザイン人材育成について協議した。そして、令和元(2019)年、デザイン系大学連携会議を基盤とする「国公立デザイン系大学会議」を立ち上げ、10月5日に国内のデザイン学分野を担う22大学から32名の研究者が集まり、会議の目標、これからの方向性の検討、各大学で行っている取組報告とそれに基づくディスカッションを行った。

## 九州大学芸術工学府 教育活動の状況

(別添資料 7328-iC-1~2) [C. 1]

- 平成 30 (2018) 年度より九州大学教育の質向上支援プログラム (NEEP) として「デザイン思考を活用した科学技術イノベーション人材育成のためのデジタルファブリケーションによる次世代デザイン教育手法の開発」を行っている。大学の中期目標にあわせて、芸術工学部・芸術工学府・芸術工学研究院の中期目標においてデザイン思考を活用した科学技術イノベーション人材育成を掲げている。この教育環境改善のヒントを得るため、平成 30 (2018) 年度は九大のデジタルファブリケーション担当教員及び技術職員が、KAIST、シンガポール国立大学 (NUS)、シドニー大学 (SU)、ニューサウスウェールズ大学 (UNSW) など海外連携大学を訪問・ラボ施設の視察を行い、当該教育に関する情報収集を行った。[C. 1]

### <選択記載項目 D エンジニアリング教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

(特になし)

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 「技術の人間化」、すなわち技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神のもっとも自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計する芸術工学と言う特徴的なエンジニアリング教育を実施している。その成果として各種分野の学会において独自の視点による研究発表が評価され、学生受賞を得ている。(別添資料 7328-iD-1) [D. 1]
- 授業形態としては、前述 (必須記載項目 4) の通り講義科目とプロジェクト等の演習科目をほぼ同数開講しており、デザイン系のプレゼンテーションを重視した形態や工学的な内容の論文等研究の内容を他者に十分な時間をかけて詳細に紹介する形態など、教育効果を高める工夫を行なっている。

芸術工学におけるエンジニアリング教育は、異分野の教員が指導を行うことで、単なる工学的な内容の講義、演習ではなく、芸術や社会など、できる限り異なる観点からの考察を包含することを目指して構築されている。

(別添資料 7328-iD-2) [D. 1]

### <選択記載項目 E リカレント教育の推進>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブ

サイト等の該当箇所（別添資料 7328-iE-1～2）

- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 修士課程においては社会人学生の割合に上昇傾向が見られる。一方、博士後期課程においては社会人学生の割合が減少傾向にある。しかし博士後期課程においては同時期に留学生の割合が増加していることから、社会人の減少については日本人学生の減少の影響を受けているものと思われる。（別添資料 7328-iE-3）

生涯学習への貢献としては、社会人を含めた全世代対象とした公開講座が平成 28（2016）年度には 10 件、平成 29（2017）年度には 10 件、平成 30（2018）年度には 8 件、令和元（2019）年度には 6 件開講されており、平成 28（2016）年度は 141 名、平成 29（2017）年度には 297 名、平成 30（2018）年度には 207 名、令和元（2019）年度には 99 名が受講している。

（再掲）別添資料 7328-iE-2） [E. 1]

- 企業の実務担当者を対象とした「聴能形成実務担当者講座」など、芸術工学の特徴を生かした公開講座を開講している。

また、運動、文化など、技術の人間化という芸術工学の理念を通じたシニアを含む全世代型の公開講座も開講しており、独自のリカレント教育に貢献している。

（別添資料 7328-iE-4） [E. 1]

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7328-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7328-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）  
（別添資料 7328-ii1-3）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14、16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7328-ii1-5）
- ・ 指標番号 15、17～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 劇場・音楽堂の建築や工学的な設計技術のみならず社会的に有効活用ができる総支配人的人材の育成を目指し、科学技術振興機構 地域再生人材創出拠点の形成プログラムの枠組みで、ホールマネジメントエンジニアリング育成ユニットが組織された。この修了生は、劇場・音楽堂の現場で活躍を続けており、この後継の取組みとして平成 29（2017）年度よりホールマネジメントエンジニア育成プログラムが開始された。また、平成 29（2017）年度よりグローバル・アーキテクト・プログラム（GAP）、さらに「産学連携サービス経営人材育成事業（経済産業省）」の支援を受けて、平成 29（2017）年度から「コンテンツビジネスプロデューサー育成プログラム（Ciao）」という独自の教育プログラムを開講している。  
（別添資料 7328-ii1-4） [1.0]
- 学生の国内外での学会発表、論文発表の実績や国内外のデザインコンペティション等で優秀な賞を受賞する、等の成果に結びついている。  
（（再掲）別添資料 7328- i D-1） [1.2]

## <必須記載項目 2 就職、進学>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府における進路状況について、修士課程修了後は、博士後期課程へ進学する者や製造業や情報通信業の技術者として就職する者が多く、その他には学術研究専門・技術サービス業などのアカデミックな職種の就職実績や、特に芸術工学府の特色としての美術・デザイン・設計関係の職種への就職についても、一定数の実績がある。

また、博士後期課程修了後は、教育・学習支援に携わる職種に就く者が最も多い。[2.1]

- 平成28（2016）年度から令和元（2019）年度における就職実績としては、修士課程、博士後期課程併せて400名を超える人材を輩出しており、主に各専門分野の研究者、技術者、クリエイター及びデザイナー等、それらの幹部候補生等として広く活躍している。また、教育機関、国家または地方公共団体等の研究機関、広告業、建築業、製造業、情報通信業、ソフトウェア開発業等、幅広い分野で就職している。[2.1]

## <選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

### 【基本的な記載事項】


- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 7328-iiA-1～3)


### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年度修了時に修了生アンケート（約60%の回収率）によると、大学院における研究及教育に対する満足度は高く特に教育に係る質問においては殆どの項目で評点5点中4点以上が6割をしめ、より実践的な教育の効果が高かったことが示されている。[A.1]

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※  部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※  部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。